

パネル討論 2009年4月27日

科学技術とODAとの連携による

効果的アフリカ科学技術 協力に
向けて

町 末男 文部科学省参与

アフリカの貧困削減は地球規模課題

- 国連ミレニアム(2000)目標
 - 2025年:極度の貧困をなくす
 - 2015年:極度の貧困を半減する
- 貧困の克服は世界平和に貢献
- 金融・経済危機は貧困国にも打撃
- 気候変動による災害は貧困国に打撃
- 貧困国のインフラ支援で景気刺激

アフリカの貧困国が必要とする 技術協力分野

- 持続的農業による農村の活性化と食糧・輸出資源の確保
- 持続可能なエネルギー(太陽・水力・原子力)の開発と電力の供給、電化率の向上、省エネ
- 医療の向上:感染症・慢性的栄養失調・癌の抑制、衛生向上
- 水の確保(飲料・農業):水資源の探査、水の合理的利用

アフリカ 諸国の科学技術基盤整備の要件一人材養成支援が重要

- 研究者交流の促進（日本招聘の拡大）
- 日本人研究者による中・長期の現地指導
- 共同研究プロジェクト推進によるOJT
- サンドイッチプログラムによる博士号取得

テーマ選定がKey

- 総合的な国家の発展計画に位置づけられる課題
- 優先度の高いニーズに応える課題
- 課題の達成に効果的な日本の科学技術を利用した「共同プロジェクト」を双方の研究者・行政官が協議して立案
- 双方の適切・有能なチームの選定が重要
- 選択と集中

科学技術協力とODAの連携の実施

- 既存技術を対象国に適合させ利用するための最適化研究
- 研究基盤整備 (ODA) — 人材育成と機材整備
- 研究開発中心のJICA「プロジェクト協力」の推進 — 社会経済効果の見える成果
- 技術移転促進のための専門家育成
- 自助努力 (Self-reliance) の促進

科学技術協力の枠組み

- 先ず二国間協力から
 - ニーズに合致した課題選定が容易
 - 迅速な決定・実施が可能
 - 成功した後、ニーズに応じ地域内他国に移転
- 多国間地域協力
 - 地域共通の課題に協力して取り組むことで効率を高める利点
 - 合意を得るのが困難な場合がある

専門家・研究者の中・長期派遣・交流を促進 する方策

- 中・長期の派遣可能な専門家を見つけるのが困難
- 専門家・研究者が国内で多忙
- 海外で仕事に躊躇一帰国後のポストに不安

解決する方法として:

- ① ポストクのなかで固定したポストを持たない若手研究者を活用
- ② Senior (60－65) 専門家の活用
- ③ 派遣専門家が数年後帰国した際に研究・教育が継続できるように、例えば適切な大学に政府(外務省など)が寄附講座を設けるなど、安心して海外に赴任出来るよう配慮した施策

調査MissionのFollow Up

二国間協力研究・開発プロジェクトの設計

- ニーズおよび国の優先順位の調査
- 協力と分担の明確化
- 目標の設定とEnd-userとの連携方策
- Road Map
- JSPS/JST/JICAの連携